

28 胆嚢摘出術における腹腔鏡下手術の割合

指標の解説

- 胆嚢摘出術には、主に開腹による胆嚢摘出術と腹腔鏡下胆嚢摘出術がある。
- 腹腔鏡下胆嚢摘出術は、開腹胆嚢摘出術と比較して、死亡率、合併症、手術時間については差がないが、入院期間と術後の回復期間が短縮される。
- 特に、合併症を伴わない胆嚢結石・胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の割合が高ければ、医療の質が高いといえる。

分子：腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した患者数

分母：胆嚢炎を伴わない胆嚢結石（ICDコード：K802）で胆嚢摘出術を施行した患者数

※ 同時に複数術式を併施した患者は除外する。

